

日本武道学会第55回大会



中学校部活動の地域移行を模索する

日本武道学会第55回大会は9月3・4日、神奈川県横浜市の桐蔭横浜大学で3年ぶりの対面形式で開催された。

初日には中学校部活動の地域移行に関する基調講演とシンポジウムが実施された。2日目には本年度総会と剣道、弓道、空手道、なぎなた、障害者武道の各専門分科会が行われた。

また、2日間を通して人文・社会科系、自然科学系、武道指導法系、ポスター発表の4分野に分かれて、一般研究発表が実施された。

■基調講演

3日午後1時から溝上真一桐蔭学園理事長が挨拶を述べて基調講演に移った。

◎講師 小久保智史氏（スポーツ庁 地域スポーツ課課長補佐）

テーマ「子供たちの成長を社会全体で支える、運動部活動の地域移行について」

学校での運動部活動はこれまで、生徒のスポーツの機会を確保するとともに、学校教育上、大きな役割を

果してきた。しかし、近年は少子化により、部活動の継続が厳しさを増している。また、中学校で運動部だけに所属している生徒が減少し、地域スポーツクラブに所属している生徒は増加しているなど、生徒のニーズが多様化している。そのため、学校単位での部活動では、スポーツ機会の確保が難しくなる地域が増えている。さらに、教員の視点からも競技経験のない教員が指導せざるを得ない現状もあり、大きな負担が生じている。そこでより良い地域スポーツ環境の構築を目指していくことが重要と考えられる。

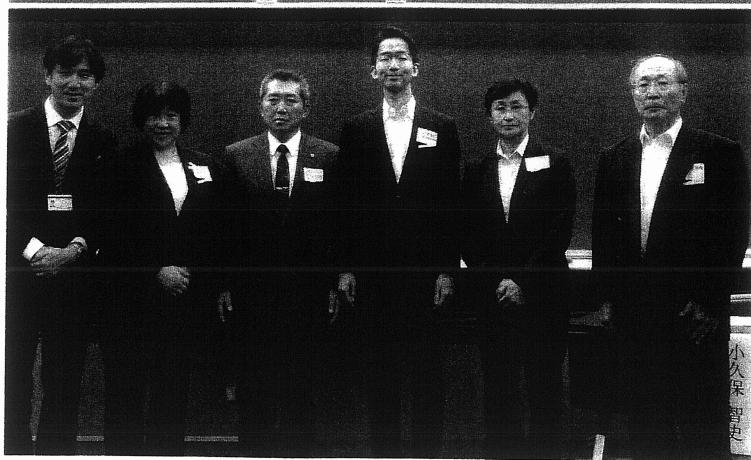
そのためには、休日の運動部活動を段階的に地域に移行すること、平日は地域の実情に応じてできることを取り組むこと、また、受け皿となる地域スポーツ団体と学校の連携・協働の推進が必要である。

急速に変化する社会では学校の「当たり前」を見つめ直す必要性がある。生徒にとってより良いスポーツ環境の構築を目指し、関係者との対話や試行錯誤、共同理解を深める努力を続けていきたい。

テーマ「中学校部活動の地域移行について考える」

3日の午後2時20分から行われた。まず、パネラーの軽米満世氏（全日本剣道連盟常任理事・学校教育部会委員長）と高橋健司氏（日本中学校体育連盟柔道競技部長）がそれぞれ発表を行ったあと、三村由紀氏（日本武道学会企画委員・防衛大学校）

がそれぞれ発表を行つたあと、三村由紀氏（日本武道学会企画委員・防衛大学校）がそれぞれ発表を行つたあと、三村由紀氏（日本武道学会企画委員・防衛大学校）



左から：溝上理事長、三村氏、高橋氏、小久保氏、軽米氏、大保木会長

の司会で参加者との質疑応答・意見交換が行われた。

▽軽米満世氏

子どもたちに中学校在学中に一番心に残っていることを聞くと部活動と答える子どもが多い。部活動が教育的意義のある活動であることは間違いない。

現在の中学校の剣道部には課題がある。それは生徒数や剣道部の設置数の減少と専門性を備えた教員の不足である。こうした状況に鑑みて、地域移行のモデル地域を設定し、検証を実施している。そこには共通課題が存在する。それは部活動の歴史に鑑みた地域、保護者、教員の意識改革である。次に指導者の確保である。剣道ができるからといって指導ができるだけではない。

生徒・保護者のニーズに合った指導者が必要になつてくる。また、平日は教員、休日は外部指導者と分けると、指導やチームの一貫性が問題となる。さらに兼職兼業教員の勤務管理、環境整備、中体連の運営転換などの課題が残されている。

そこで、全剣連では、学校と地域の「融合型」の部活動が望ましいと

考へ、そのための改革として①「部活動指導員制度」の導入による学校教育現場への指導者の参入、②「社会体育指導員・授業協力者」の地域活動への参入、③地域における若手指導者の育成などを推進する。全剣連はさまざまな教育機関と連携し、中学校部活動の段階的な地域移行へ繋げたいと考えている。その第1段階として今年4月には中央講習会で各都道府県連盟への協力依頼や各都道府県指導者名簿の作成を行つている。

▽高橋健司氏

近年の柔道の現状は、経験がある小学生が中学生になると柔道をやめてしまい、中学生の競技人口増に繋がっていない。また、公立学校では柔道を専門とする体育教員が不足しているだけではなく、管理職が安全管理面や専門性に鑑みて創部を認めない現状が起きている。さらに、教員が部活動の指導にかなりの時間を割いているなどの問題点を抱えている。

以上の点を踏まえた上で部活動を地域に移行する際には、次の課題が挙げられる。

・大会に参加する上で地域スポーツ



シンポジウムで意見交換を行うパネラー

発表後の意見交換では基調講演を

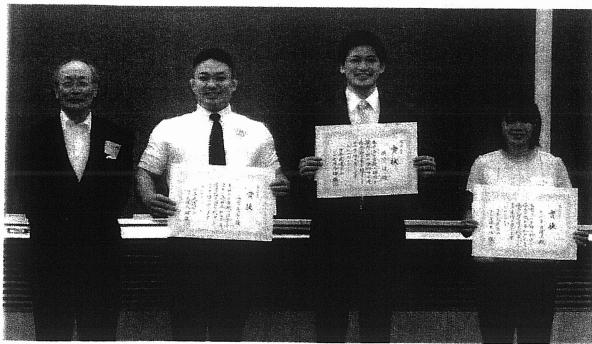


- ・選手のチーム割りの再編成。
- ・平日に学校、土日に外部での部活動となると生徒に休息を取りさせてくれて良いのか。
- ・部活動の指導に当たっている教員のやりがいが減ってしまうのではないか（教員が事務処理などを担当しなければならず、負担が減るということはない）。
- ・かつて教員はサービス業であるといわれた時代もあった。部活動の今後のあり方も検討しつつ、指導者への配慮や気遣いを考えてほしい。

行つた小久保氏も加わり、最後に登壇者からの感想が述べられた。

▽三村由紀氏

シンポジウムの内容を聞き、まずは部活動に従事している先生方に敬意を表したい。また、武道の地域移行については、地域に道場があるのでも、そこが受け皿になつてくれると他のスポーツ種目よりも上手く移行できるかもしれない。さらに、地域に活動の場があることはいつでも戻つてこられるという生涯武道にも繋がると考えられる。



大保木会長（左端）と優秀論文賞で表彰された（左から）三宅氏、堀川氏、志々目氏

■総会・表彰式

4日午後1時から総会と表彰式が

行われた。総会に先立つ令和4年度日本武道学会優秀論文賞の表彰では、人文・社会科学系から堀川峻氏

（筑波大学）の「近代初頭の武士道思想に関する一考察」、「武士道の淵源」と「武士道と倫理・道徳」に着目して、「自然科学系から志々目由理江氏（宮崎大学）の「柔道選手における運動間に行う短時間の前腕屈筋群へのアイシングが把持筋持久力に及ぼす影響」、武道指導法系から

三宅恵介氏（中京大学）の「柔道競技におけるスクア獲得に有効な投技の戦術行動」の3点が選ばれ、大保木輝雄日本武道学会会長から表彰状を受けた。

■研究発表

その後行われた総会では「少林寺拳法専門分科会の設置について」を思想に関する一考察、「武士道の淵源」と「武士道と倫理・道徳」に着目して、「自然科学系から志々目由理江氏（宮崎大学）の「柔道選手における運動間に行う短時間の前腕屈筋群へのアイシングが把持筋持久力に及ぼす影響」、武道指導法系から

三宅恵介氏（中京大学）の「柔道競技におけるスクア獲得に有効な投技の戦術行動」の3点が選ばれ、大保木輝雄日本武道学会会長から表彰状を受けた。

続いて大保木会長が「武道学会が対面方式で3年ぶりに開催されました。規制によって当たり前のことができなくなつて、対面の意義を理解する2年間となりました。武道は対面の極地を行くものだと思います。武道学会が世界に何を発信できるかと考えた際、物事の意義と価値、その弊害も含めてきちんと伝える必要

があります。そのためにもさまざまな観点から研究を重ね、その中身が何であるかを外国の人でもわかるよう自分の言葉で語ることが必要になのではないかと思います」と挨拶した。

両日の午前に行われた研究発表は、4分野で計67演題に上った。その一部を紹介する。

結論として、柔道には身体能力の向上や他者を敬う姿勢の習得の面で非経験者にも期待されていると言えます。また、非経験者の柔道に対する「危険」とのイメージは五輪の影響や武道必修化によって低下したことなどがうかがえる。また、コミュニケーションや知性に関わる部分は非経験者のイメージの低さがうかがえる。

■研究発表

現在の柔道の価値とイメージについて柔道経験の有無による差異を明らかにするため、アンケート調査を実施した。質問内容は柔道そのものに関する8項目と柔道家のイメージに関する6項目で構成され、回答者に問うた。「とてもあてはまる」「あてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4つから回答した。

■研究発表

背負投の身体の重心速度に影響する要因を解明するため、一流選手のグループと学生選手のグループを比較した。背負投を練習させて、身体分析点のデータを収集。分析区間は「取り」が軸足を離地させた時点か

結果は、柔道経験の有無にかかわらず「あてはまる」「とてもあてはまる」と回答した項目は、「体力や健康の保持・増進」「礼儀」などの4項目。柔道経験者が非経験者を大幅に上回ったのは「知的」「協調性」「危険」など6項目。反対に「勇気」「近寄りがたさ」は非経験者の方が大幅に上回った。

■研究発表

・中山佳子氏（早稲田大学スポーツ科学研究所）ほか
「現代における柔道の価値に関する一考察」

・中山佳子氏（早稲田大学スポーツ科学研究所）ほか
「現代における柔道の価値に関する一考察」

■研究発表

・石井孝法氏（了徳寺大学）ほか
「柔道背負投に関するバイオメカニクス的研究」

■研究発表

・石井孝法氏（了徳寺大学）ほか
「柔道背負投に関するバイオメカニクス的研究」

対面方式で3年ぶりに開催されました。規制によって当たり前のことができなくなつて、対面の意義を理解する2年間となりました。武道は対面の極地を行くものだと思います。武道学会が世界に何を発信できるかと考えた際、物事の意義と価値、その弊害も含めてきちんと伝える必要

2022. 10 月刊「武道」